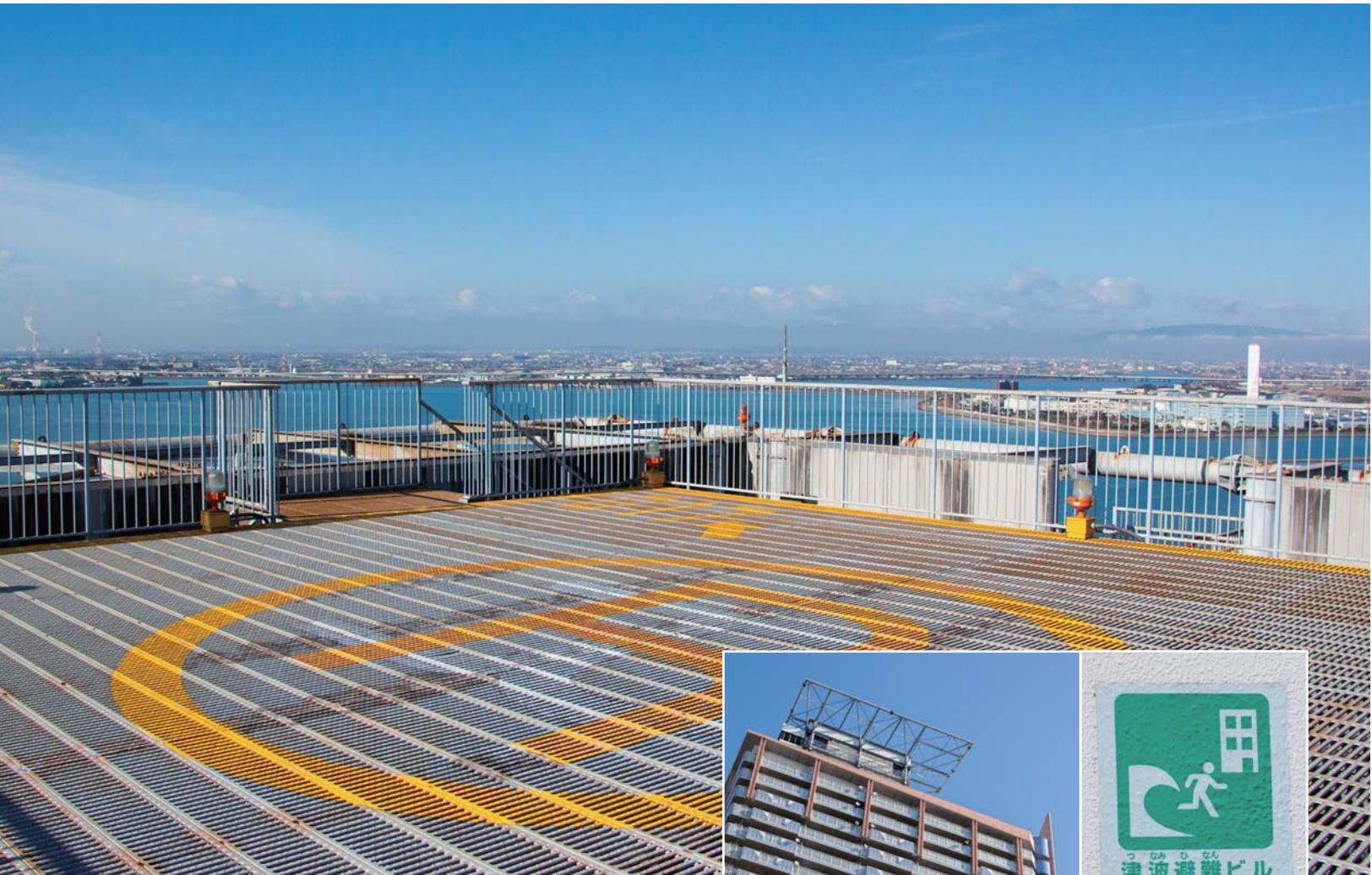


# News Letter

ニュースレター

2021.3 vol.118



津波避難ビル(指定緊急避難場所)に指定されている市営みなと荘(港区)。  
屋上にはヘリポートを設置。

## 特集◎ その日に、備える 東日本大震災の教訓を生かして

まちづくり支援

教えて!奥野先生(名古屋都市センター長)～「新たな公」って何ですか～

まちづくり来ぶらり

名古屋の和菓子

# その日に、備える 東日本大震災の教訓を生かして

## 参加して楽しい! 供米田地域防災大会

恒例、中学生の校歌斉唱で始まる開会式



「体験! 防災アドベンチャーパーク」では、シャッフルでグループを組んで体験ツアーに出発する趣向



AED (蘇生) 体験

福和教授の減災講話



校庭での炊き出し試食会 (地元有志と中・高生有志が協力して調理・運営)



耐震ストローハウス工作



火事に遭遇! 脱出体験 煙は想像以上に何も見えないね



段ボールシェルター作り

消火訓練



山田組社員による会場設営



やり続けるのが大事!



山田厚志さん

写真提供: (株)山田組

### 津波に強い地域へ、進む整備

突然の激しい揺れ、長く続く地震動、押し寄せる巨大な津波。2011年3月11日、東日本大震災は、東北地方を中心に12都道県で2万2000人余の死者(震災関連死を含む)・行方不明者、国交省の浸水区域を対象とした調査によれば約12万棟の建物が津波により全壊するという甚大な被害をもたらしました。それから10年。東日本大震災は他人事ではありません。

東日本大震災後、国では「南海トラフの巨大地震\*モデル検討会」を設置。名古屋市でも都市の脆弱性を目の当たりにし、「あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震」を想定した対策

を考える必要性が議論されました。そして一層安全で震災に強いまちづくりを推進することを目的に、新たな被害想定をもとに、まちづくりの方針の見直しが行われました。それが平成27年1月に改定された「震災に強いまちづくり方針みんなで創る“防災自律都市”名古屋」です。

この改定では、避難困難の解消、建物倒壊等の防止、火災延焼の防止などとともに「津波に強い地域の構築」が新たな課題となりました。東日本大震災の想定外の津波は堤防では防ぎることができず、また、避難した施設に津波が襲来し被害拡大の一因になりました。そうした教訓を踏まえ、津波防護施設の整備を進めるとともに、津

波から命を守るため、まずは逃げる指定緊急避難場所\*として「津波避難ビル」の指定を進めています。

### 減災まちづくりの広がり

東日本大震災以降、広く浸透した考え方に「減災まちづくり」があります。自然災害は完全に防ぎきれないという認識を共有し、産官学民、多様な主体の取り組みによって災害被害を抑えていこうというもので、災害対策基本法にも盛り込まれました。減災まちづくりでは、自分の身は自分で守る“自助”、社会的責任としての“公助”に加え、地域コミュニティによる“共助”の力が重要で、この3つが効果的に連携することが必要とされています。そうした減



かさ上げが完了した高潮防波堤

写真提供:名古屋港管理組合

災まちづくりを楽しく実践してきた事例があります。「供米田中学校区地域防災大会」(主催:戸田学区連絡協議会、豊治学区連絡協議会)。2005年から続く全国でも注目の自主防災・減災活動です。発案したのは地元の建設会社(株)山田組の会長山田厚志さん。毎年、山田組一丸となって企画・運営を担っています。

### 楽しく続けて 地域の防災力を上げる

「建設業は一年に一度、全社員が集まって安全大会を行います。安全についての心構えを再確認する日です。だったら地域でも一年に一度災害に備えて地域の人と学び合う日があってもいいんじゃないの。始まりはそんな思いでした」と山田さん。会場を供米田中学校にしたのも、平日の昼間に発災し

たら地域にいる中学生が共助の大きな力になるという狙いがあったこと。行政が単位とする小学校区を二つ合わせた中学校区で、顔の見える関係づくりを広げていこうというものでした。

防災大会の特色は、その多彩なプログラム。「ミステリー地域防災大会」「防災アドベンチャーパーク」「世界一受けたい防災・減災授業」、地域対抗の担架リレーで盛り上がった「防災運動会」など、今まで一度として同じプログラムはなく常に体験型です。「今年はどういう趣向かなと思ってもらえたらうれしい。ほくら、面白いことをやりたいんですよ」。今では4~500人が参加し、戸田・豊治両学区連絡協議会はもちろん地元中学、高校、区役所、消防団、警察、地元企業や学生ボランティアが運営協力、さらに気象予報士や学識者、認定特定非営利活動法人レスキュース

トラックヤードなど防災の専門家も常連となって防災・減災のノウハウを発信する貴重な場となりました。地域でできること、やるべきことをしっかり体験し身につけることで「自助・共助」のある災害に強い地域をめざしています。



堀川口防潮水門の補強

写真提供:名古屋港管理組合

#### \*南海トラフの巨大地震

駿河湾から日向灘沖を震源地として過去に何度も大きな被害をもたらしてきた巨大地震。南海トラフ沿いで、地震の発生可能性が相対的に高まったと評価される場合「南海トラフ地震臨時情報」が気象庁より発表される。

#### \*指定緊急避難場所・指定避難所

東日本大震災後、災害対策基本法が改正され災害の危険からまずは逃げるための「指定緊急避難場所」と自宅の被災により帰宅できない場合に避難生活を送るための「指定避難所」を区分することが定められた。



防潮壁



市営金城ふ頭駐車場  
名古屋港管理組合、名古屋市、運送業者間で協定が結ばれ、高潮時、金城ふ頭に待機している輸送車の緊急避難場所となる。

## 防災・減災活動を地域で仕掛ける

福和 伸夫さん

名古屋大学減災連携研究センター センター長 教授

山田厚志さんは地元の建設会社として、いざという時地域を守るのは我々しかない、前向きに地域の人とつながることを始められました。そして社員総出で防災大会を開催し続けています。防災大会、面白いですよ。いつも新しい試みをして、専門家を巻き込んで、地域の人もその気になって。がんばったらみんなが協力し合えるということを示してくれました。すごいコーディネート力です。

では他の地域はどうするか。まずは地域が大好きな人を探そう。その人に防災は大事だと気付いていただく。この二つがかみ合えば地域防災は動いていきます。そして動き始めたときに、背中を押す応援団となるのが名古屋都市センターだと思います。コミュニケーションの形が変化する現代、熱量のある人をいかにうまく育てるか、SNS時代の防災・減災の新たな課題です。



# 教えて! 奥野先生 ~「新たな公」って何ですか~

名古屋  
都市センター長



奥野信宏センター長

昨年はコロナにより生活の不便・不安を感じる中、行政だけに頼ることなく、地域やコミュニティで助け合い、つながってこうとする人々の自発的な活動が、多くみられました。

本号では、公共経済学を専門とし、国土審議会会長、共助社会づくり懇談会座長をつとめられ、長年「人の繋がり」による市民活動・社会活動を論じる第一線で活躍しておられる、名古屋都市センターの奥野信宏センター長に、お話をうかがいます。



 市民活動団体やNPOのことを「新たな公」とか「新しい公共」と呼ばれているのを聞いたことがあります。 「新たな公」とは一体何のことですか？

 これまで、行政が担ってきた公共的なことを、一般の市民が担う、ということです。

時代とともに、「多様な主体」「新しい公共」「共助社会」などいろいろな言い方がでてきましたが、全部同じです。日本では長く公共的な役割は「お上」つまり行政がやること、という意識が強かったのですが、そうではなくて「一般の市民が担う」という発想が「新たな公」なんですよ。

 なぜ「新たな公」という考え方ができたのですか。

 もともと日本では、地域でお互い助け合ってきました。 結い(ゆい)と言われますが、地域の稲刈り、道や水路の維持、子供の見守り…親が仕事から帰るまで隣の家庭で、おやつをいただきながら過ごす…などという光景は、普通のことでした。

しかしそういう助け合いが、特に農村では兼業や出稼ぎなど、労働形態が様々になったことや都市への人口流出があり、成り立たなくなってきました。その結果、道路や水路の管理などの公共のことは行政が税金を使って担うようになり、見放された里山や棚田などは荒廃しました。

 地域のつながりがなくなることでどんな問題があるのですか。

 経済がどんどん発展し、行政も税収の伸びで住民の

いろいろな要望に応えることができているときは、問題は見えてきません。新興住宅地では「地域コミュニティがない、隣人の顔も知らない」ことに一抹の不安はあっても、「それでいい、田舎のコミュニティは濃厚すぎるから」と、思う方もみえたでしょう。

ところが阪神淡路大震災が起きた際、一番頼りになったのは隣人だった、という体験があった。これをきっかけに、地域の社会にはやはり人の繋がりが大切では、という声が高まってきたんです。そして、阪神淡路大震災の直後にNPO法ができました。

災害だけではない。経済成長が高いと失業してもすぐに次の仕事が見つかるでしょう。でも今はそうではない。一旦失業したら住む場所を無くし、日常生活が送れなくなる可能性がある。これは誰の身にも起きうることです。災害への対応や貧困は、なかなか行政だけでは解決できないのです。

 新たな公は、どんなことをするのですか。

 大きく4つの形があります。

一つ目は、行政がやるべきことを、NPOや企業が自らの意思と負担で行うもの。道路沿いの樹木や花壇の手入れ、公園や河川の掃除、防災の取組等。行政の手が行き届かない地域の「地域ビジョンづくり」などもありますね。

二つ目は、行政がやるべきとは言えないが公共的な価値の高いことを行うもの。例えば、古民家の再生、古い町並みの保存、それから一人暮らしの高齢者の見守り等。その地域の魅力を発掘して発信するという活動も



## 【まちづくり支援】



あります。これらはボランティア団体によって多くは行政との協同で行われています。

三つ目は、市民団体等が、財政的に自立して社会貢献すること。ソーシャルビジネスと言われますが、例えば、山間部で葉っぱを採取し都市の料亭等に出荷するビジネス、これは地域にとっても良い事業機会の創出です。自家用車を使った高齢者の移動手手段の確保も盛んですが、この分野はこれからもどんどん多様になって成長するでしょう。

四つ目は、中間支援とって、こういった公共的活動を行いたい皆さんの支援をするものです。

 色々な活動があるんですね。「新たな公」は行政の、どんな分野を担うのですか。

 あらゆることです。教育、環境、防災、子育て、まちづくり、医療、福祉、観光…。スポーツで地域コミュニティを作り、災害時に助け合うつながりを育む、という活動もあります。

 へえ！地域でスポーツを楽しむことも「新たな公」の活動になりえるんですね。そういうことなら、私にもできる気がしてきました。

 もちろん、誰でもできますよ。すぐにでも何か始めてみることをおすすめします。元気な女性や引退した高齢者の方などが、ポンっと思いついて何か始められることは多いです。



 どんなことから始めればいいのでしょうか。

 花がお好きなら、花植えはどうですか。公共施設の周りに花壇をつくって花を植える…公園の中は手入れされているが、意外と外周は何もされていないものです。やりたいことがある、熱意は充分だが何から始めたらいいかわからない、という場合は、自治体が相談にのってくれます。助成を実施しているところもありますよ。

 地域みんなでやったらいいと思いますが、関心がない人も多くみえます。そういう方々を仲間にするにはどうしたらいいのでしょうか。

 こういう活動は、「皆が勝手に好きな楽器を持ってきて、好きに吹き鳴らす」のが命です。束ねるものではない。面白そうに吹き鳴らしていれば、人はきっと、覗きにやってきますよ。

 「新たな公」は、これからの社会に、必要な活動だということが、よくわかりました。

 そうです。「必要」を超えて、これからは、「普通のこと」になっていくと思います。「社会貢献したい、助け合いたい」という気持ちは、きっと誰しもが持っているものですよ。「人の繋がり」で地域に活力を取り戻していきましょう。



### まちづくり活動助成スタートアップ部門のご案内

名古屋都市センターでは「まちづくり活動」を始めるグループに、活動の助成をしています。地域に根差した「地域のまちづくり団体」が対象です。詳しくは名古屋都市センターホームページをご覧ください。

まちづくりライブラリー  
 全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料や研究機関の調査研究報告書なども収集しています。



和漢三才図会



色分模様菓子図絵



菓子図譜

※和菓子が描かれた古書

撮影:国文研/所蔵:味の素食の文化センター

## 名古屋の和菓子

歴史ある城下町には、必ず老舗の和菓子屋さんがある、と聞いたことがあります。名古屋にも老舗和菓子店は多く、和菓子の生産・消費量は全国でもトップクラスです。和菓子が現在のように身近になったのはいつ頃なのでしょう。

鎌倉時代、栄西禅師によって日本に抹茶が伝わると、武士を中心に茶の湯が流行します。茶に添える菓子が生み出されますが、現在の和菓子(上生菓子)につながる菓子の多くは、江戸時代に誕生しました。

江戸初期の名古屋では、「鶴屋」「桔梗屋」「両口屋是清」が藩の御用菓子をつとめ、文化奨励政策のもと、茶の湯・和菓子は庶民にも広まりました。庶民向けの和菓子屋も増え、江戸後期から明治期にかけて「美濃屋(現在の美濃忠)」「川村屋」「雀おどり總本店」「青柳(現在の青柳総本家)」「伊勢屋(現在の納屋橋饅頭)」などが開業します。明治以降は三河の西尾が抹茶の一大産地となったことも、この地域の喫茶文化を後押ししました。

名古屋の菓子というと「ういろう」が浮かびますが、実は

ういろう自体は日本各地にゆかりの地があります。「ういろう」の名は室町時代に来日した陳宗敬という人物の役職名「礼部員外郎(れいほういんういろう)」から来ています。陳家の製造した漢方薬「外郎(ういろう)」に色形が似ているからという説と、その薬の口直しとして出された菓子だからという説があります。名古屋のういろうの元祖は、2代藩主・徳川光友の時代に御用商人の餅屋水谷文蔵(のち餅文総本家)が製造販売したことが始まりとされています。名古屋名物のイメージは、昭和30年代より「青柳ういろう」が名古屋駅構内で土産として販売されたため、全国に広まったようです。

さらに詳しく知りたい方は、こちら

◆参考文献◆

『百年むかしの名古屋』(Sc-ナ)

『東海のと菓子名店』(Se-オ)

『尾張名古屋大百科』(Se-ナ)

◆参考HP◆

味の素食の文化センター HP

<https://www.syokubunka.or.jp>(2021/2/25参照)

※( )内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

## 図書紹介

### 『タイル建築探訪』

著者：酒井一光  
 出版社：青幻舎  
 請求記号：If-サ

近年、タイル建築が注目を集めています。著者は、近代建築史の分野から日本のタイルを論じたバイオニア的存在です。意識しなければ見逃してしまいそうな装飾まで、しっかりと紹介されています。美しい写真と簡潔な文章が、タイルを通して歴史を物語ってくれます。



### 『銀座ミツバチ物語 美味しい景観づくりのススム』

著者：田中淳夫  
 出版社：時事通信出版局  
 請求記号：Cf-タ

銀座で美味しいハチミツが採れたら、面白い。そんな思いつきで始まった銀座ミツバチプロジェクトは、どんどん大きく広がっていきました。果たして大都会の中心でミツバチは生息できるのか。試行錯誤しながら著者の奮闘は続きます。楽しみながらミツバチについて知ることができます。



### 『世界鉄道史 血と鉄と金の世界変革』

著者：クリスティアン・ウォルマー  
 出版社：河出書房新社  
 請求記号：Hb-ウ

鉄道を技術や進歩ではなく社会史的観点で書いた書は多くありません。本書は、世界中の鉄道の歴史をひとつにまとめ、鉄道が地球規模でおよぼした壮大な影響を実証するという目標で書かれました。ヨーロッパからインド、アジア、アメリカまで、鉄道が与えた社会的変化の大きさを感ぜられます。



1

世界運河会議NAGOYA2020 開催のご案内



世界のまちづくりの先進事例に学び、これからの中川運河を徹底的に議論する「世界運河会議NAGOYA2020」を令和3年5月21日(金)・22日(土)・23日(日)の3日間に渡って開催します。(主催:世界運河会議NAGOYA2020実行委員会 共催:名古屋市・名古屋港管理組合・(公財)名古屋まちづくり公社)

同会議のプログラムは、海外ゲストによる基調講演、水辺のまちづくりの専門家によるパネルディスカッションやテーマ別セッション、中川運河に関わる市民・企業等が参加する「ダイバーシティセッション」、議論を総括した「Nagoya Model」の宣言といった国際会議のほか、会期中に中川運河再生文化芸術助成(ARToC10)事業と連携したアートイベント等を予定しています。

また同会議は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、国際会議プログラムのオンライン配信を行う予定です。詳細情報は公式サイトをご覧ください。

<https://icf-nagoya.jp/>



2

名古屋都市センター 賛助会員の募集について

名古屋都市センターの設立趣旨に賛同し、センターの活動を支援してくださる令和3年度の賛助会員を募集しています。当センターの活動にご理解・ご支援いただける企業・団体・学校・個人の皆様のご入会をお待ちしております。

《賛助会員の種類》

- ・ 法人会員(年会費 1口50,000円)
  - ・ 学校法人(年会費 1口50,000円)
  - ・ 個人会員(年会費 1口5,000円)
- (期間:令和3年4月1日から翌年3月31日まで)

《会員特典》

- ・ 機関誌「アーバンアドバンス」、広報紙「ニュースレター」の送付
- ・ 都市センター主催、企画のセミナー等の優先案内(まちづくり講演会、施設見学会等)
- ・ まちづくりライブラリーの利用を優待
- ・ 貸会議室・ホールの利用を優待 ※法人会員のみ
- ・ 都市センター出版物の割引販売
- ・ 税制上の優遇措置

詳細・申込につきましては、名古屋都市センターHPをご覧ください。

3

名古屋都市センター まちづくり広場・まちづくりライブラリー 天井工事に伴う休館について

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで(予定)、天井工事に伴いまちづくり広場を休館させていただきます。まちづくり広場内にある喫茶コーナーにつきましても休業させていただきます。

また、12階まちづくりライブラリーにつきましても、天井工事に伴う影響を考慮し、工事が行われる平日は休館しますが、臨時窓口(13階事務室内)を設置して予約図書受付・貸出サービスを実施します。なお、工事が行われない土曜日・日曜日や一部の祝日については開館し、通常どおりのサービスを実施します。

再開時期については詳細が決まり次第当館のホームページなどを通じてご案内いたします。

ご利用のお客様には大変ご迷惑をお掛けしますが、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



# 昔今

中下新馬場  
より  
御城を望む

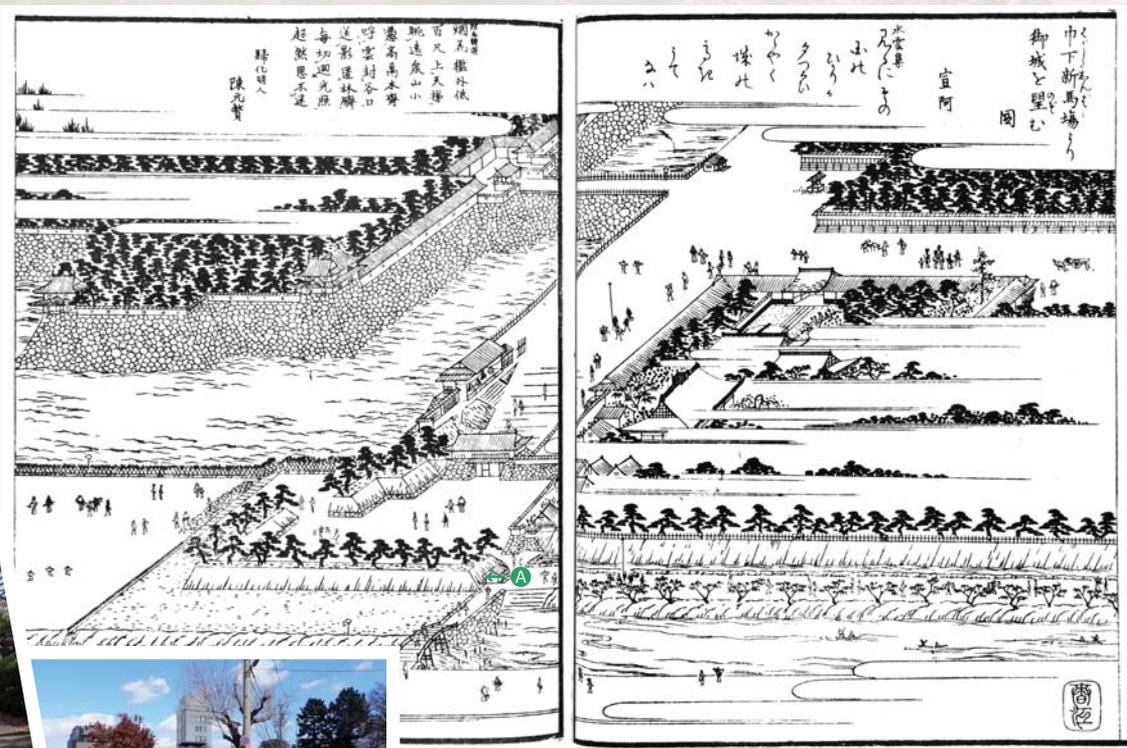
## 名古屋最古の水道の地

名古屋城の南西に位置する幅下(はばした)。名古屋城を囲むなみなみとした水堀と、手前に流れる堀川とが対比されているかのような描写です。船の行き来する堀川は、築城と同時期の慶長15(1610)年ごろ、この幅下地区から南の熱田にかけて開削され、城下町へ生活物資を運搬する水路としての役割を果たしました。

名古屋城の城郭の高さを称える詩歌が添えられていますが、城郭自体が高いだけではありません。名古屋城が那古野台地と呼ばれる丘陵地に築かれたのに対し、堀川以西の地区である幅下は低いところにありました。「幅下」という地名も、同じ城下町のうち台地に作られた商人街や御家人街を「上町(かみまち)」と言ったことに対する呼び方からきていると言われています。

台地上の地域は地下水が良く、生活に欠かせない上水も井戸に頼ることができましたが、幅下や堀川以西の低地は井戸の水質が悪く、別途上水を確保する必要がありました。

そこで寛文3(1663)年、勝川(現庄内川)の水を名古屋城北の御深井(おふけ)御堀まで通水する水路「御用水(ごようすい)」とともに、堀の水を堀川以西の低地に配水する「幅下上水(はばしたじょうすい)」が作られました。樋により堀川を越え、台地との落差を利用して地下にめぐらした木樋に流して配水する仕組みの幅下上水は、名古屋最古の水道です。近年の発掘調査で、かつて使用されていた樋などの遺構が発見されています。



▲の地点から矢印の方向に撮影した写真。右(中下門側)から左(堀川側)にかけて道路が傾斜しており、台地による高低差が感じられる。

(参考文献)※( )内はまちづくりライブラリーの請求番号です。  
『新修名古屋史 第3巻』新修名古屋史編集委員会／編(Scナ)  
『西区100年のあゆみ』西区制100周年記念事業実行委員会／編(2B21-2008)  
『埋蔵文化財調査報告書78 幅下遺跡(第5次)』名古屋市教育局委員会／編(2B40-2017)



名古屋城の南西に位置する中下門(はばしたもん)。現在は石垣のみ残っている。



公益財団法人 名古屋まちづくり公社

**名古屋都市センター**  
Nagoya Urban Institute

〒460-0023  
名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル  
TEL 052-678-2208  
FAX 052-678-2209  
<http://www.nup.or.jp/nui/>



### 利用案内◎どなたでもご利用いただけます。

#### 休館情報

まちづくり広場は令和3年4月1日から令和4年3月31日にかけて休館いたします。まちづくりライブラリーは令和3年4月1日から令和4年2月28日にかけて平日は休館いたします。詳しくはINFORMATION(p.6)をご確認ください。

#### 【11階】まちづくり広場(展示スペース・ホール)

火～金曜日: 10:00～18:00  
土・日曜日・祝休日: 10:00～17:00  
※喫茶コーナーは令和4年3月31日まで営業を休止しています。

#### 【12階】まちづくりライブラリー

火～木曜日: 10:00～18:00  
金曜日: 10:00～20:00(当面の間18:00まで)  
土・日曜日・祝休日: 10:00～17:00

#### 【休館日】

月曜日(祝休日の場合はその翌日)・年末年始  
(まちづくりライブラリーは、上記のほか第4木曜日、特別整理期間も休館)

